

今年度の主な事業(R3)

- ①認定こども園施設整備事業
- ②城前小学校校舎増改築事業
- ③勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業 ※
- ④与勝調理場整備事業
- ⑤保育施設整備事業
- ⑥放課後児童健全育成事業
- ⑦ふるさと応援寄附金推進事業
- ⑧与勝第二中学校屋内運動場増改築事業
- ⑨こども医療費助成事業
- ⑩勝連城跡公園整備事業
- ⑪赤野公園整備事業
- ⑫与那城小学校校舎改修事業
- ⑬長田団地建替事業
- ⑭城前小学校屋内運動場増改築事業
- ⑮めんそーれうるま！キャンプ・合宿事業 ※
- ⑯川崎ルーシー河線道路改良事業
- ⑰ヌーリ川公園整備事業
- ⑱水産物供給基盤機能保全事業（うるま地区）
- ⑲天願公園整備事業
- ⑳安慶名西原線道路改良事業
- ㉑災害に強い高機能型栽培施設の導入推進事業
- ㉒勝連城跡歴史文化観光施設管理運営事業
- ㉓伊波中学校空調設備機器復旧事業
- ㉔観光防災危機管理対策事業 ※
- ㉕本庁舎西棟昇降機設備改修事業
- ㉖うるま市就労支援事業 ※
- ㉗保育士宿舎借り上げ支援事業
- ㉘具志川小学校校舎増改築事業
- ㉙保育補助者雇上強化事業
- ㉚公立認定こども園運営費

※は沖縄振興特別推進交付金を活用した事業です

$$\text{市民一人当たり納税額} = \frac{\text{市税}}{\text{人口}} = 92,103 \text{円}$$

$$\text{市民一人当たり予算額} = \frac{\text{一般会計}}{\text{人口}} = 502,008 \text{円}$$

差額 = ▲409,905円

市民一人当たりの納税額と予算額の差額40万9,905円は地方交付税や国庫の支出金、また市の借金等で賄われています。

予算額の内訳を市民一人あたりで見ると…
(令和3年4月1日現在の人口125,394人で換算)



第147回うるま市議会定例会で、令和3年度の一般会計予算および特別会計等の予算が可決されました。予算規模は、980億8,411万円で、前年度当初予算に比べ2.8%の増額となっています。

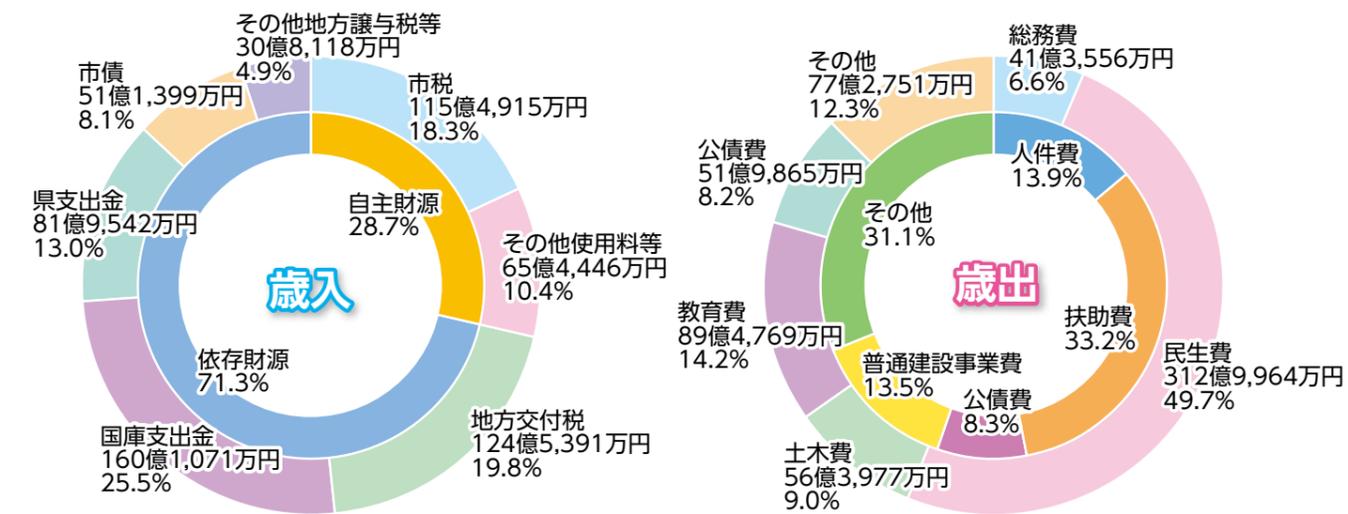
(単位:万円)

区分	令和3年度当初予算額	令和2年度当初予算額	比較	伸び率	
一般会計	6,294,882	6,018,949	275,933	4.6%	
特別会計	国民健康保険特別会計	1,547,821	1,604,765	△56,944	△3.5%
	介護保険特別会計	1,078,726	1,049,809	28,917	2.8%
	農業集落排水事業特別会計	1,475	1,112	363	32.7%
	後期高齢者医療特別会計	109,963	107,572	2,391	2.2%
	小計	2,737,985	2,763,257	△25,272	△0.9%
水道事業会計	376,627	374,032	2,594	0.7%	
下水道事業会計	398,918	385,674	13,244	3.4%	
合計(予算規模)	9,808,411	9,541,912	266,499	2.8%	

※端数処理のため、比較及び合計の予算額が合わないこともあります。

一般会計予算 629億4,882万円

このうち一般会計予算を目的別と性質別に分けて分析すると、次の円グラフのとおりになります。
※円グラフの内側が性質別で、外側が目的別の構成になります。



◎予算の特徴

令和3年度は、「第2次うるま市総合計画・前期基本計画」の5年目となり、市民が互いに支えあい協働によるまちづくりを実践し、まちの将来像「愛してます 住みよいまち うるま」の実現に取り組んでいくための重要な時期であります。そのような中、財政運営の健全化を図りつつ、少子高齢化などを背景とする社会保障等を充実する一方、きむたかホール機能強化事業や赤道、宮森小学校の校舎等増改築事業の進捗に伴う事業費減により、一般会計予算の総額は629億4,882万円で、前年度当初予算と比較して27億5,933万円、率にして4.6%の増となっています。

歳入については、市税等の自主財源が歳入総額の28.7%、地方交付税及び国庫支出金等の依存財源は71.3%となっています。自主財源においては市税が前年度と比較して1.2%の増額、地方交付税については3.0%の増額を見込んでいます。

歳出は、行政サービスを目的別で分類した経費で見ると「福祉や医療などの経費（民生費）」や「学校教育や生涯学習などの経費（教育費）」が令和2年度と同様に大きな割合を占めています。性質別で分類した経費で見ると、会計年度任用職員制度に伴う人件費と生活保護費等の扶助費が増額となっています。

うるま市では行政改革の視点に立ち、事務事業の見直し等による経費の圧縮や市民税などの徴収率の向上による自主財源の確保に取り組んでいますが、歳入における自主財源の割合が低い中、多様化する市民ニーズと地域課題に対応するため、市の貯金である財政調整基金を約25.7億円、減債基金を3.3億円取り崩して予算収支の均衡を保つなど、依然として厳しい予算編成となっています。

※新型コロナウイルス感染症対策関連事業については、補正予算第1号にて12億3,978万円が当初予算と併せて第147回うるま市議会定例会で可決されています。

予算で使われる用語の意味

【一般会計と特別会計】 一般会計は福祉や教育、道路・公園や衛生など市の基本的な施策を行うための会計で、特別会計は特定の収入をもって特定の事業を実施するために設けられている会計です。

【自主財源と依存財源】 自主財源は、市税やごみ処理手数料など市が自主的に収入できる財源のことで、依存財源は、国や県から交付されたり割り当てられる収入のことです。

【市税】 市民税や固定資産税など、市民や市内の事業所などが納めた税金です。

【地方交付税】 全国的に一定水準の行政サービスが実施できるよう、歳入の格差を調整するために国から配られるお金です。

【国・県支出金】 事業を実施するための特定目的の財源として、国や県から交付される使いみちが決められているお金です。

【総務費】 市の全般的な管理事務・事業や交通安全、防犯対策等に要する費用です。

【民生費】 児童、高齢者、障害者などの福祉に要する費用です。

【土木費】 道路建設や公園の整備、市営住宅の管理などに要する費用です。

【教育費】 幼稚園、小中学校をはじめ学校教育や社会教育・文化振興などの教育全般にわたる費用です。

【公債費】 地方公共団体が借り入れた市債（長期の借金）の元利償還金及び一時借入金の利子です。

【人件費】 職員等に対し勤労の対価、報酬として支払われる費用です。

【扶助費】 児童から高齢者まで幅広い市民を対象に国の法令や市の条例などにに基づき、社会生活を援助するために支出する費用です。

【普通建設事業費】 学校や公営住宅、道路などを建設するための費用です。

お問い合わせ先：財政課 ☎973-6753